

平成 30 年度 第 11 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回のキーワードは、クライアントにより何度も繰り返される感情の言葉、「向いていない」「何も出来ない」「自分はダメだ」「職員らしくありたい、あるべき」「逃げ」です。

[問い 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 5 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(内省 共感 助言 ものの見方 先入観)
(15 点)

事例 I では、CCt は CL の体験について断片的なものの見方しかせず、「気配りやコミュニケーション能力がない」との先入観を持ち、仕事の向き不向きを断定しているため、CL の就労意欲を下げている。また、CCt の独断で長期就労を探そう助言するなどクライアント中心とはいえず、問題解決に結びついていない。一方、事例 II では、CCt が CL の過去の体験に共感し今の就労体験でのエピソードとの共通点を探ることで CL の内省を促しているため、CL は自身の思い込みに気づき、自己認知を修正していくことで CL 自らが就労に対して前向きになるよう導き、問題解決へと向かっている。(6 行)

[問い 2] 事例 I の CCt4 と事例 II の CCt5、CCt8 の下線部のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I CCt4 相応しくない

CCt4 の「…気配りも出来ず」を「気配りやコミュニケーション能力がない」に置き換え、また、「A さんには向いていない」と CCt の価値判断で断定することで CL の自尊感情を下げている。

事例 II CCt5 相応しい

CL5 を受けて、実際にそう思うきっかけとなった具体的エピソードを尋ねることで、CL に気づきをもたらし、内省を促す方向へ導いている応答である。

事例 II CCt8 相応しい

過去の体験と現体験を繋げることで、「何をやってもダメ」と短絡的に考えてしまう CL 自身の無意識的な自動思考に気づき、自らの認知に変化をもたらす一助へと結びつける応答である。

[問い 3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

自己分析の結果から自身の適性やビジョン、介護職への興味関心が見えてきたにもかかわらず、自身の過去の体験により「向いていない」「何もできない」などの思い込みがあり、自己理解が不足している。また、「ちゃんとできない」「職員らしくあるべき」など理想も高く、仕事内容に関しての理解も不足している。

[問い 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

就職に対して前向きに動き出した姿勢を支持しつつ、まずは介護の仕事について、職種や必要な資格、仕事内容、就労機関などについて調べることを促し、その上で、介護施設の職員などに職務内容に関して相談してみるよう勧める。併せて、「職員らしく・ちゃんと支援すべき」とのあいまいな高い理想自己と、「何をやってもダメ」「自分は何もできない」という低い現実自己をともに見直すことで、解離していた自己を修正し自己一致に近づけることにより、就職から「逃げる」ことなく前向きになれるよう支援していく。